

# 1つの題材で個に応じて多様に発展させる

尾形祐樹

東京学芸大学附属小金井小学校

## 1. 個別最適な学びと協働的な学びによる改善

令和3年、中央教育審議会答申で個別最適な学びと協働的な学びによる「令和の日本型学校教育」の実現の必要性が示された。そこで、カリキュラム・マネジメントの充実・強化が求められている。

今回は、4年生のわり算の筆算の習熟場面で一人一人が個に応じて、多様に発展できるようカリキュラムの工夫を行った。以下、実践を紹介する。

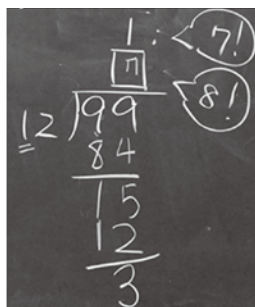
### 2. □□÷□□の商は1けた?

4年生のわり算の筆算では、3年生の学習から桁数が大きくなるが、仕組みは1桁と変わらない。単元の中では、仮の商を立て、修正する方法を数時間かけながら習熟していく時間がある。この習熟場面で「□□÷□□の商は1けた?」という問題を子どもに提示した。この問題に対して、いくつかの子どもの反応を想定し、一人一人が自分の実態に合った方法で問題解決にあたることを目標にした。

- ① ランダムに数値を入れて確かめようとする子
- ② 1つの式で演繹的に説明しようとする子
- ③ 数を固定して、帰納的に説明しようとする子

### 3. 仮商修正は全体で確認し、商が1桁になる説明と問題の発展は、個々に応じて

2.の①で、ランダムに数値を入れて確かめようとする子は、試行錯誤して問題を解きながら、仮商修正を行っていく。まだ、数の感覚が豊かではないので、問題を解きながら徐々に2けた÷2けたに慣れていく。



99÷12で試してみた。  
商が7では、まだわれる。  
もう1回12でわって商が8。

2.の②で、演繹的に説明しようとする子は、次のような式で説明した。

$$99 \div 10 = 9 \text{ あまり } 9$$

2けたで一番大きい整数	2けたで一番小さい整数	商が1けた
-------------	-------------	-------

この式は、□□÷□□の商が一番大きくなるから商は、絶対1けたになる。

2.の③で調べようとする子は、②の式と説明だけでは、本当に商が1桁になるかわからないので、わる数とわられる数をそれぞれ固定して調べた。

わられる数を固定	わる数を固定
99÷11=9	98÷10=9あまり8
99÷12=8あまり3	97÷10=9あまり7
99÷13=7あまり8	96÷10=9あまり6

## 4. 問題を発展させる

日々、子どもが問題を発展できるようにしている。例えば、「□□□÷□□□の商は1けた? 2けた?」という問題がクラスで提示された際、ある子から問題に対する答えとして素晴らしい説明がされた。

わる数	×	商	=	わられる数
3けたの数	×	10	=	4けたの数
もし商が2けたなら、位が1つ上がるから、□□□÷□□□の商は、絶対1けた!				

問題を発展させる中で、子どもが生き生きと動き出す。